



昭和63年当時の御所野ニュータウン、褐色の造成地が広がります



平成11年のニュータウン

あきたノスタルジー

秋田の昔を、写真で振り返ります。

市南東部、御所野地区約380%に広がる「御所野ニュータウン」。
秋田空港や高速道路を最大限に活用し、多様な都市機能をもつ緑豊かな新しい街を整備しようと
昭和58年にスタートした新都市開発整備事業です。

昭和60年の起工から15年。

この間、一般住宅はもとより、企業、学校、公園、商業施設、老人福祉エリア、勤労者福祉施設などが建設され、
「ニュータウン」の名にふさわしい、すばらしい“街”へと変貌を遂げました。

かつて山林・原野が大半を占めていた御所野の丘陵地には、
現在1,600世帯、4,600人あまりが住んでいて、新都市内の会社では1,800人が働いています。
ノスタルジーと言うにはまだ早いけど、新世紀に発展する秋田市の姿がここにもあります。



馬場彬「モニュマン」1985年

千秋美術館

「新収蔵品展」

と き / 12月13日(水) ▶ 1月28日(日)

(12月29日～1月3日は休館)

午前10時～午後6時

ところ / 千秋美術館(アトリオン内)

観覧料 / 一般300円、高・大学生200円、中学生以下無料

平成10年度から12年度にかけて寄贈を受けたり購入した作品を紹介し
ます。平福百穂「獅子図」や田中木芽「閉じ込められた赤・95」など、日本画、洋画、版画、書を約40点展示します。この機会にぜひご覧ください。

問い合わせ 千秋美術館 ☎(836)7860